



ふるさとの手紙を福地出身者へ



地域の人達とがんばった運動会



表現活動発表会「福地の善九郎」



みんなで励まし合って登った見行山



福地小最後の学習発表会

未来に向かって はばたけ福地の子

八百津町立福地小学校。江戸時代から明けて間もない明治六年、福地の子どもにも義務教育が必要だとして、苗木藩の武士であった小林五郎治が、この地に「寺子屋式清文校」と称し福地小学校の前身を開校。以後一三七年間地域の人々に大事に守られながら歴史を刻んできました。時には農繁期の保育所となり小学生だけではなく赤ちゃんまでが福地小学校に集い、またある時は校舎が火災に遭い、地域の人々の協力で教員住宅や公会堂などを臨時教室にして授業を続けました。

戦争や災害など様々な苦難を乗り越え立ち止まることなく歴史を刻み続けてきた福地小学校。しかし、人口減に伴い子どもたちの数が激減。多いときには全校児童が一七〇人以上であった時もありましたが、平成二二年度は九人となってしまいました。新年度からは、在校生六人は新しく久田見小学校での学校生活を送ることになります。

時代の変化にともない地域から消えていく学校。一抹の寂しさはありますが、子どもたちのため前を向いて進むしかありません。



福地小学校の思い出を胸に刻み、現状を受け止め、今私たちができることをひとつひとつ実現していき、未来に向かって歩んでいきましよう。